

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	①作成日	令和 年 月 日		
②法人・団体名	特定非営利活動法人ターサ・エデュケーション			
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	〒379-2117 群馬県前橋市二之宮町 1291 番地 6			
④責任者氏名	中村 優実	(役職名等)	事業責任者	
⑤担当者氏名	中村 優実	(役職名等)	事業責任者	

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R06-032	⑦助成金額	82万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	ひとり親家庭に属する不登校中高生への進学および復学に向けた無料学習支援				
⑩主な実施場所名・及びその住所	前橋市表町2丁目3-6 前橋第一ビル4階				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

2024年8月22日(木)より、原則木曜日に学習支援を実施。参加者は8名(中学生5名、高校生3名)

支援では参加者が自ら学習計画を立て、家庭学習後にスタッフと共に振り返り、次回の次週計画につなげる自律的な学習サイクルを毎週繰り返した。またSNSを活用した個別の声かけも定期的実施した。このプロセスを通じて、参加者の学習意識が向上し、自主的な学びの姿勢が育まれた。特にある生徒は「演劇を学びたい」と専門学校進学を目指すようになるなど、将来に対する前向きな姿勢の変化が確認された。スタッフとの対話を通じて、信頼関係を築きながら自分の思いを表現できるようになったケースもあり、学習支援を超えた心理的支援の効果も確認されている。加えて発達に特製のある子どもや学習に困難を抱える子どもに対しては、認知特性や興味関心に応じた教材の選定を行い、無理のないステップでの学習支援を実施した。また、今回の事業を踏まえたマニュアルを改訂した。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A:人)	平均時間 (B:時間)	活動量 (A×B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	105	2	210	
高校生等	63	2	126	
大学生等				
学習支援員等				
その他	130	2	260	
合計			596	

⑬その他の定量的な数値（任意）

- 自己肯定感チェックテストの変化（設問10問。40点満点）

Oさん（中学校1年生男子）1回目 25点 2回目 33点

Tさん（中学校3年生男子）1回目 28点 2回目 31点

Kさん（高校2年生女子）1回目 20点 2回目 29点

令和6年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：ひとり親家庭に属する不登校中高生への進学および復学に向けた無料学習支援

法人団体名：特定非営利活動法人ターサ・エデュケーション

作成者氏名：中村 優実

1.実施した目的・実施内容について

本事業は、ひとり親家庭・不登校の中高生を対象に無料で学習支援を提供することにより、進学や復学の実現、または将来の選択肢を広げることを目的として実施した。家庭環境や不登校という背景により、学習の遅れや自信の喪失が顕著である子どもたちに対し、「自分で計画を立てて取り組み、振り返り行う」という学習サイクルを通して、自己管理能力と学習意欲の向上を目指した。また学習支援だけでなく、自習スペースの提供や学習面や生活面に対する相談支援を行った。

2.実施活動の詳細

- ・ **実施期間**：2024年8月22日(木)より2025年3月27日(木)
毎週木曜日(15時30分～17時30分) 全30回 実施
- ・ **場所**：前橋市表町2丁目3-6 前橋第一ビル4階(前橋駅徒歩4分)
- ・ **参加人数**：中学1年生から高校3年生までの8名(中学生5名、高校生3名)が参加
(2024年8月22日(木)～2025年3月27日までのべ利用者数168人)
- ・ **実施内容**：
 - 1) 参加者が自ら立てた学習計画に基づき、家庭学習に取り組む
 - 2) 学習会でスタッフと振り返り、課題や進捗を確認
 - 3) 学習意欲の維持向上のため、参加者へ平日声掛けを実施
 - 4) 特性や習熟度に応じた個別の教材提供(発達特性や教科の苦手意識に配慮)
- ・ **地域やボランティアスタッフとの連携について**：

学習支援員は不登校やひとり親家庭児童生徒への支援に理解と支援経験のあるメンバーで、ボランティアには当法人が運営するフリースクールの卒業生3名を含む10名に参加していただいた。協力いただいたボランティアの中には、当法人代表が非常勤講師を務める大学に在籍する学生の参加もあり、そのほか県内の高校生や大学生の参加があった。なお、当法人の事業に関わるボランティアスタッフには、支援スキル要望などの確認に加え個人情報の保護や支援に際しての注意点等、団体規約を事前に説明し、それらの同意を条件に参加いただいた。ボランティアスタッフの中には専門知識を有するスタッフの参加があり、利用者の興味関心に寄り添った探求的な学びを提供いただいた。

・活動写真等



3.活動の成果

- ・ **家庭学習への意識の変化**：自分で学習計画を立てる習慣が身につき、「家庭でも学習するようになった」という声が多く聞かれた。
- ・ **自己肯定感の向上**：学習を積み重ねる中で、小さな成功体験を重ねることで自信がつき、以前は将来の夢や希望を抱けなかった子どもが「演劇を学びたい」と専門学校進学に意欲を示すようになるなど、大きな変化が見られた。
- ・ **教材提供の工夫が成果に直結**：発達特性のある子どもに対し、視覚的理解を助ける教材や段階的に構成された学習プリントを導入したことで、理解がスムーズに進み、学習の定着が促された。
- ・ **人との関係性の構築**：継続的な支援を通じてスタッフとの信頼関係が育まれ、学習に対してだけでなく、将来や日常の悩みを相談するケースも見られた。

4.活動内容についての反省点

- ・ **参加者の継続率とモチベーションの維持の難しさ**

参加者の中には体調や精神的なコンディションにより、継続的な参加が難しいケースも見られた。また参加する子どものモチベーションはもちろんその保護者についても外部との関わりを持つことに抵抗感を持つ方もおり、保護者に対する支援の必要がある。

・個別対応の限界

特性のある子どもに対して、より専門的な支援が必要とされる場面もあり、人的リソースの確保が課題となった。発達特性に沿った学習支援を行うにあたり、ボランティアスタッフにも細かな情報共有と支援方法について共通認識を持つ必要性があった。ボランティアスタッフと子どもの情報共有を行う時間の確保についても、十分な時間が確保できず、反省点となった。

5.今後の課題

・支援体制の強化

特性や背景の応じた支援ができるよう、学習支援員の研修や専門職(心理士等)との連携をさらに強化していきたい。またボランティアスタッフとも情報共有の時間の確保をおこない、連携した支援体制を整えていきたい。

・参加しやすい仕組みづくり

体調や予定に柔軟に対応できるオンライン支援の併用や時間帯の調整など、通所のハードルを下げる工夫が必要と感じた。また送迎など保護者のサポートを必要とする子どももいることから、保護者にとっても通所しやすい場所にする必要がある。学習支援の中での子どもの変化等を伝えながら、保護者とのコミュニケーションを積極的に取っていきたい。

・支援継続とアフターフォロー

進学・復学後も継続的な支援ができる体制を整えることで、中退や再不登校の防止につなげていく必要がある。気軽に相談できるよう、子どもとの信頼関係が築けるよう、さらに働きかける必要がある。

6.活動を通じての思い

今回の活動を通じ、「子どもの可能性をフェアにする」というターサ・エデュケーションの理念の重みを改めて実感した。経済的困難や家庭環境、不登校という状況が、子どもたちの可能性を狭めてしまう現実がある一方で、適切な支援と関わりがあれば、自ら学び、自分の未来を描く力を取り戻していく子どもの姿があった。

ある子は、学びの場の中で小さな成功体験を積み重ねるうちに、自分の関心を言葉にし、表現できるようになった。やがて「演劇を学びたい」と語るようになり、専門学校への進学を自ら選び取ろうとしている。自信のなさや無力感に覆われていた日常に、手応えや希望が生まれる過程は、私たちか掲げるビジョン「未来にときめく社会」への一歩だったと感じる。今後もどんな子どもにも学びと成長の機会が届くように環境づくりと伴走支援を続けていきたい。